

化学教育 徒然草

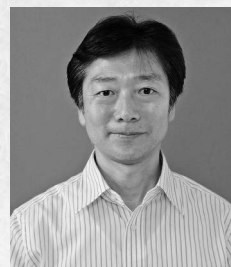


— 日本を再び世界一に —

KANAI Motomu

金井 求

東京大学大学院薬学系研究科 教授
日本化学会 理事



巻頭言

なんてことを言っていると、この人、頭おかしいんじゃないかと思われる時代になった。私自身、最近まで、このまま下り坂を降りて行くと日本はどこまで落ちるんだろうと思っていた。一方で、多くの真に優れた才能を持つ学生に囲まれて日々の生活を送っていると、なぜこれで勝てないんだ？ という疑問がここ数年、私の頭から離れなかった。いわゆる世界大学ランキング上位の Harvard, Oxford, 北京大学といった学生がどれだけのものかを知っているし、Nobel 賞をとったあるいはそのレベルの教員も知っているが、私の周りの学生は彼ら彼女らに比べて寸分も劣っていない。それなのにここまで力負けするのは、いったい何なんだろう？ もちろん私自身の無能さは理解していて、サッカーや野球の全日本監督であったらたちどころに解雇されていると思いつつ、それでも私だけでなく多くの分野のリーダーが似たような疑問に苦しんでいるのは事実であろう。

結局、私の頭では良く分からない、という結論にすることにした。いや、私がそんなことを考えても状況は簡単には変わらない、それより今、自分たちがやっていることの凄さを信じて、世界に発信し続けようと思えることにした。研究費の伸びが低くても他人から評価されなくても若い才能との日々の対話はプライスレスだし、面白いこと（私の場合は基礎研究）をやっている人がいれば世界中どこでも会いに行き行ってディスカッションすることもできる。若い才能が私の理解を超えてプロジェクトを動かしていくのを見るのは楽しいし、その状況でも論文に私の名前が入るならばここだけは譲れないという刻印を押していくのもやりがいがある。それが質の高い時間であり、これを積み重ねて日本として世界の中に立ち位置ができるのだろう。その意味で人生は最高に楽しいし、我々は決して世界に負けていない、と思うことにした。

ホンダやソニーの創業者も、“世界一になるのは結果であってそんなことはどうでもよい”との思いがあったのではないかと。これは、みんなで質の高い時間を積み上げて前を向いて素晴らしい人生を送ろう、その先に世界があるかもね、という思いを口にしたのではないかと、私は勝手に考えている。言語化できないものは形にできない。頭がおかしいと思われて、どんな逆境でも、日本を再び世界一にしよう。その才能は身近にあふれている。

[連絡先]

113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 (勤務先)